

Report of Electrical and Electronics Engineering Experiment

Exp. No. 491

「フリップフロップとその応用」

2005 年度 No. E4__ __ Group__ __ Name_____

Partners_____

実験日 Date . . ()

Numazu College of Technology

Department of Electrical and electronics Engineering

提出日	チェック項目
1 . .	必須(受取るかどうかのチェック)
2 . .	レポートの体裁が整っている
3 . .	目的を書いている
4 . .	論じ方が科学的である(反対語は、「根拠の無い論じ方をする」)
5 . .	実験結果に敬意を払っている
6 . .	課題 1: 図 5 (RS-F/F のタイミングチャート) を完成できた
7 . .	課題 2a: 実験 4a(タイミングの確認) ができた
	課題 2b: 実験 4b(コントロールゲート無し回路) の実験結果を正しく予測できた
	課題 2c: 実験 4c(コントロールゲート付き回路) の動作を正しく予測できた
	課題 2cb: 上記 2 つの実験を正しく実施した
	図 11(b) (T-F/F の実現例-1) から図 11(c) を作り出すことができる。
	図 11(c) を使った説明により, 図 11(b) を T 型 F/F であると説明できる。
	逆項目: この項目は, 以下の項目を無効にする 期限を大幅に遅れた
	必須(以下の 5 項目にも必ずトライすること。平均点がつくかどうかのチェック)
	論じ方が丁寧であり抜かりが無い
	図 13(T-F/F の実現例-2) について, 図 11(c) に対応する表を作ることができる。
	前項で作った表を使った説明により, 図 13 を T 型 F/F であると説明できる。
	図 12 は, T 型 F/F として不適切であると説明できる。
	課題 7: D-F/F を使って T-F/F を実現する回路と, T-F/F を使って D-F/F を実現する回路をそれぞれ設計なさい
	逆項目: この項目は, 以下の項目を無効にする 期限を守らない
	加点ぶん
	理論について, 自分なりに勉強してまとめた
	論じ方に独創性がある
	課題 4: 図 14(b) の JK-F/F を解析し, 図 14(a) の真理値表が実現されることを説明できる。
	JK-F/F を使って T 型, D 型を実現できる。
	課題 5,6: 同期式と非同期式回路の特徴とを把握している